



■プロフィール

昭和3年富山県生れ。昭和32年東京大学大学院建築学科博士課程修了、同大学丹下建三研究室を経て、昭和40年より(株)総合設計事務所所長。昭和63年5月から(社)静岡県建築士会会長。このほかに、(社)日本建築士会連合会理事、静岡県文化財保護審議会委員など公職多数。最近印象に残った本「文明が漂う時」木村尚三郎、「次代を創る」岩国哲人。好きな言葉「悔いのない日々を」、趣味は「彫刻を見ること」、血液型B。

切り口は、いろいろ。

社団法人 静岡県建築士会

会長 やま なし せい しょう 山梨清松氏

訪問インタビュー第十二回は、県建築士会・山梨清松会長。去る六月初旬、公務ご多忙の事務所をぶらり訪問。建築士会の現況、最近の建築業界の変化など幅広い話題でお話し願った。

トレンドは単体から面へ

最近の建築士会の重点事業は？

世界が大きく変わりつつある今、建築士会だけでなく、あらゆる団体の事業は曲がり角にきています。戦後復興時代の建築物単体の発想から、近頃では集落、居住環境と、近頃では面的な魅力ある地域特性を引き出し、住みやすい空間をいかに創造するかが全国的に問われており、このことが昨年六月の建築基準法改正にも結び付いています。

このような中、建築士会では、平成元年度以降、県からの委託を受け、歴史的建築物の調査事業や東海道歴史のふるさとづくり推進調査事業を進めています。これは戦前の歴史的建築物やまち並みを調査し、それを過去から未来につなげる中で、保存、再生、新たな活用を目指す、いわば県内各地の

歴史財を核に地域振興を目的としたマクロ的な調査事業です。ともあれ、大きな変化の中で、私共建築士会だけでなく、木材という材料、木材業界が貢献できる分野、努力目標の再構築が必要な時期です。

やる気を起こさせる手立てを

新素材開発の中の木材業界は？

木の良さを設計者、プランナーがどう認識しているか。また、これにどう訴えてゆくのかをよく検討すべきでしょうね。ご存知のとおり、今の若い建築技術者は大学で殆ど木造を習っていません。この若い人達に木材を理解していただき、やる気を起こさせる手立てを考えてほしい。規格、単価、樹種別の使い分け、新しい木造のデザインなど提供していただくことも数多いのではないのでしょうか。

一例をあげれば木造のデザイナー。先に全国団体である日本建築士会連合会が企画編集した「新・木造空間」は力学的な木造の良さを非常に新しい感覚で表現しており、私達が見るとやる気が出てくる。構造が即デザインになってい

る。虚飾がなく、ひとつの建築美を形作っている。木造ならではの軽装感と構造美は建築士の創造意欲をかきたてるに十分です。

継続的にPR活動を

木材業界に向かってひとこと？

私が副会長をしている県住宅振興協議会でも「住まいの文化賞」で功労者や優秀作品を表彰しています。木材業界でも、これはという木造住宅や貢献者を推せん願うと共に、優秀な作品をイベントなど様々な機会に写真やパネル等で多くの人々に紹介してゆくことが大切ではないでしょうか。その意味で、静岡型木造モデル住宅「富士ひのきの家」はなかなか良い試みだと思えます。

特に週休二日制が定着するこれからは、時間的にもゆとりが出てくるでしょうし、資金面で主導権を握っているご婦人層にアピールすることも考えるべきでしょうね。情報発信は地道に、継続的に進めるべきだと思います。その切り口や推進の方法はたくさんあるような気がします。